水をつくる

拡張工事の必要性

4月は「河川美化月間」。水道供給源である川はみんなのものです。美しい環境をみんなで守りましょう。ゴミの不法投棄などをしないよう、みんなのご協力をお願いします。

当市は水道の普及率が一〇〇%で、県内、全国でも数少ない水道の完備した市です。しかし、それでも毎年、配水管の敷設替えや、浄水場の拡張をしなければなりません。今号は、なぜ配水管の敷設替えや拡張工事が必要なのかを説明しましょう。

急がれる石綿管の敷設替え

当市の水道は、昭和七年、全町を対象に計画されましたが、全域に給水されるまで、約二十年の歳月がかかっています。

ところが、昭和三十年前後の市村合併の時、合併の第一条件として、水道を引くことがあげられました。そして「まず水が出ればよい」ということで、地区民総動員の配管敷設工事が行われました。そのうえ一時的ではあれ、全戸から出資もお願いしました。これは全国的な傾向でした。

また配水管も、鋳鉄管の数が少なく、財政状態が困窮していたこともあって、その頃水道界で賞賛されていた石綿管を使用しました。この石綿管も、当時は強度も十分と考えられていましたが、今日のように重量車が通るとは予測できなかったのです。このため各地で石綿管が破損し、その敷設替えに追われているのが現状です。

当初の五倍の水使用量

給水人口は、創立時三万人の計画でしたが、現在、実給水人口は六万人と二倍になっています。また配水管延長も当初の数十倍になっています。

当初は、一人一日当たりの給水量も一一〇ℓと見ていましたが、現在では五四〇ℓの計画をたてなければなりません。これだけの給水をするには、当初の配管では給水能力が不足することは必然的です。

市街地は、創設当初の配管網で、五倍の水を給水しなければなりません。そこで〝循環方式〟をとり、減圧を防がなければならないので、既設の管を各所で接続する工事を行っているのです。

人口増でバイパス管を敷設

また最近、郊外に団地ができて人口が増えていますので新しくバイパス的な路線も敷設しなければなりません。

金津地区は、給水当初は町部から田家―程島―金津と送水されていましたが、中間に新しい団地が造成されたり、各家庭の使用水量が増えたこともあって、末端は給水不能の状態となっていました。そこで東大通川にそってバイパスを敷設し、金津小前で既設管に接続して、当初とは逆に送水して減圧を解消しています。

小合地区も、町部をさけて市民会館脇をバイパスで古田地区で既設管に接続して、減圧の解消をはかっています。

新関地区は、中新田、大安寺から送水していましたが、新しく新金沢町、東金沢を通過して既設管に接続し、減圧の解消にあたっています。

萩川地区は、善道町―下興野町を通って送水していましたが、団地造成でこの地区は水不足をきたしてきました。そこで山谷地区から車場まで農道にバイパス管を敷設し、車場から市之瀬、覚路津方面に送水しています。また、中央部にあたる北潟から北上の既設管に接続して、減圧の解消にあたっています。

北上地区は水圧は増しましたが、一部の地域で石綿管の痛みがもっともひどく、破裂が多発している状態で、全面的な敷設替えが必要となっています。

また今年は、酸性の土質地域の石綿管の痛みがひどいので、年次計画による敷設替えと、小合線の古田から小戸下組までと、川口から結までの増口径管の敷設替え工事が行われます。

さらに必要な拡張計画

浄水場では、年ねん伸びる給水人口に対処できる一日三六、〇〇〇㎥の浄水能力にするため、高速沈でん池、急速ろ過池の建設がはじまります。この水量は、六万七千人分の給水量です。しかし下水道が完備し、水洗トイレが普及すると、一人当たりの使用量も伸びるため、次の拡張計画が必要となってきます。

お買物、ご用命は市内で

表具
鈴木一心堂
一級技能士　法定外装工事店
訓練指導員　建設業者登録
本町3☎2-2035

全国ジンペット・チェーン店
Jimpet
寝具のデパート
ふとんの姥山屋
本町3丁目　☎(代表)2―0261